

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	Academic Written English II		
英文授業科目名	Academic Written English II		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	後学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I		
開講学科・専攻	情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	近藤 良子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題： 企業・研究室・学会で求められる即戦力をめざします。具体的には、F101（言語自習室Windows）からアクセスできるe-Learning教材(ALC NetAcademy)を活用し、以下の能力をバランスよくスキルアップします。</p> <p>1) input（情報入手）：スピードリスニング+シャドーイング 2) output（情報発信）：英語でのプレゼンテーション（PowerPoint）</p> <p>プロジェクタ+スクリーンを使つてのプレゼン（PowerPoint）は、企業・研究室・学会いずれの場合でも「評価」を伴うケースがほとんどです。特に企業が欲しいのは即戦力です。Word, Excel の次にPowerPointを必須アイテムと考え、職種によってはバイヤー或いはエンドユーザーをターゲットに、高速大容量のニーズにかなったファイル+プレゼンを要求してきます。またPowerPointは、「映像との同期」・「webへのアップロード」など応用範囲が広いのも特徴の一つです。</p> <p>(b) 達成目標： 1) input：戦力になるリスニングはスピードを要求されます。段階をおって実践力を養いましょう。 2) output：文法に頼って日本語を英訳するだけの英作文では、論旨が不明になる・2つの意味に取れる・文脈がずれる・稚拙な表現に終始する、などの理由で査読を通しにくいのが現状です。current English（実際に使われている英語）を英文データベースとして活用し、PowerPointのスライドやプレゼンの原稿に仕上げましょう。（近い将来、各自の専門分野に特化した英文データベースを作成しておく事は、自身のコンテンツを守る情報発信の戦力につながります。）PowerPointファイルのプレゼンは情報量が多いので、テキストベースの論文とは別の意味で戦力になります。しかし同時にリスクが高く、現場での問題解決能力も問われます。基礎から教えますが、小学生でも使うソフトですから、授業では少しレベルを上げます。数値を伴うデータ（グラフ・表）などとともに映像・フラッシュ・ジフアニメ・写真・音声などを工夫し、説明責任を負える説得力のあるプレゼンスキルを習得しましょう。</p>
--

電気通信大学 平成19年度シラバス

【前もって履修しておくべき科目】

なし。

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

特にありませんが、基本的なコンピュータスキル（Windows）と高校での英語の成績が10段階中7以上はあった方がよいと思います。

【教科書等】

TOEIC対応のe-learning教材を使いますので教科書は不要です。

【授業内容とその進め方】

初回で、後学期の授業内容・評価方法の説明・e-Learning教材(ALC NetAcademy)の紹介などの他、実際に学会で使われた.exeファイル（映像とPowerPointファイルを同期させたもの）・PowerPointファイルをwebへアップロードできるソフト・英語でプレゼンしている様子の映像などを紹介します。

2回目以降からリスニング+シャドーイング（スピードと内容のレベルを少しずつ上げていきます。）と並行させて、PowerPointファイルの基本構造、基本機能、英文データベースの扱い方、英文サイト検索、オリジナル映像ファイル作成などについて説明します。また応用機能を活用したPowerPointファイルの実例を使い、数値を伴うデータ（グラフ・表など）の扱い方、映像・フラッシュ・ジフアニメ・音声などの扱い方などについて順を追って説明していきます。

最終回にいたる前2～3回、プロジェクタとスクリーンを使って、実際に英語でプレゼンするチャンスがあります。最終回は学期末試験（スピードリスニング）です。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

成績評価方法：

- 1) 学期末試験・提出ファイル類・英語でのプレゼンテーション。65%
- 2) 平常点・出席率。35% 遅刻3回で欠席1回のカウントとします。

評価基準（単位取得に必要な下限レベル）：

- ・スピードリスニングは、5段階中レベル4までのリスニングを40%以上理解できる。
- ・PowerPointファイルとプレゼンの原稿で英文データベースの編集ができています。
- ・指定されたファイル類を全て提出している。
- ・3分の2以上の出席率。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【オフィスアワー：授業相談】

授業相談：

金曜日 16:20～17:20（但し事前にアポイントを取って下さい。）

【学生へのメッセージ】

百の「評論」より、一つの責任ある「提案」です。自分で創り上げたコンテンツは、それが有形であれ無形であれ、諸君の人格同様に尊重されるべきものです。電通大の学生であることにプライドをもって受講して下さい。

【その他】

教室はF-101（言語自習室）、Windowsの環境です。

関連図1は、e-Learning教材(ALC NetAcademy)の原文の一例です。

関連図2は、e-Learning教材(ALC NetAcademy)の内容一覧（一部）です。

関連図1



関連図2

